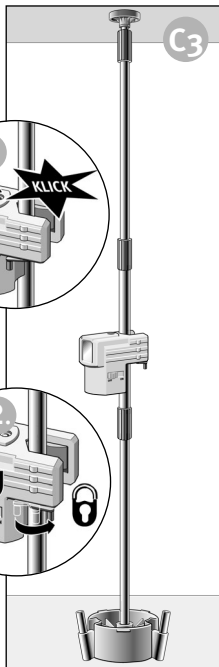
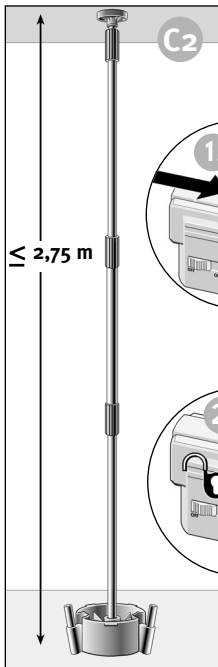
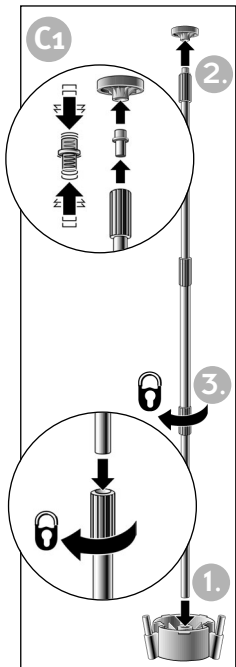
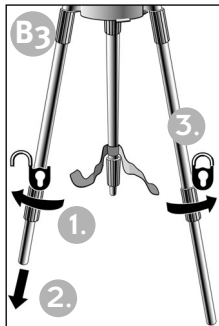
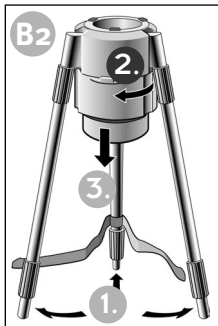
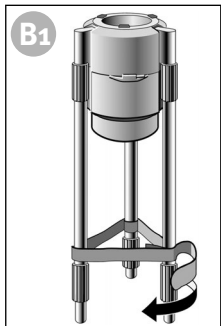


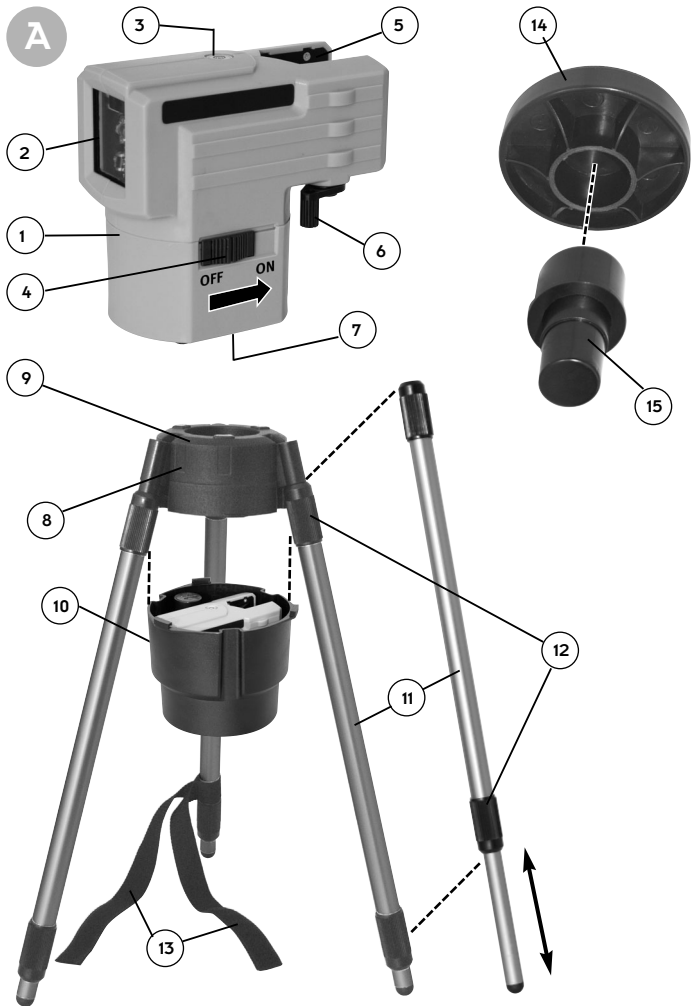
**STABILA®**

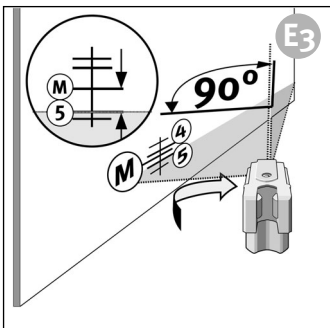
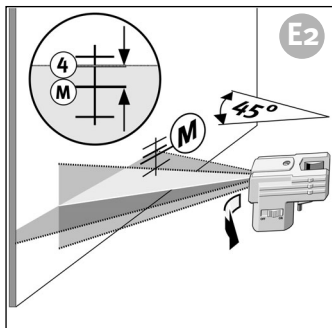
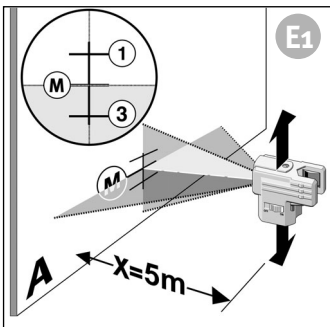
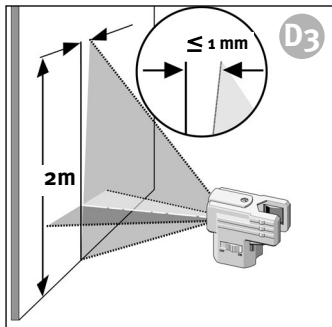
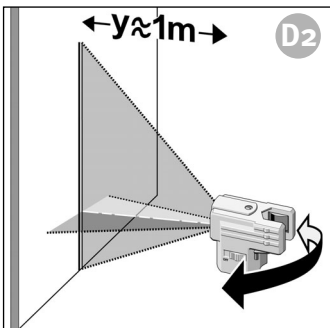
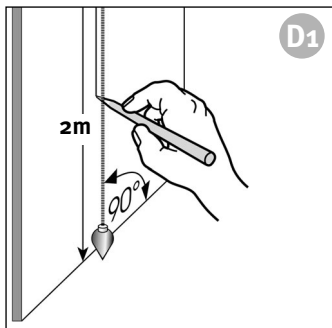


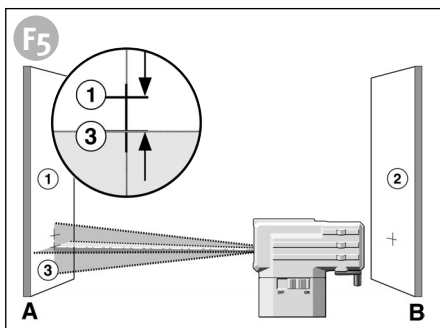
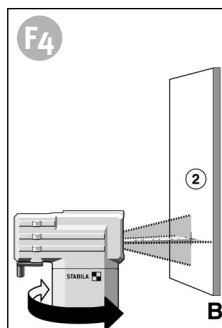
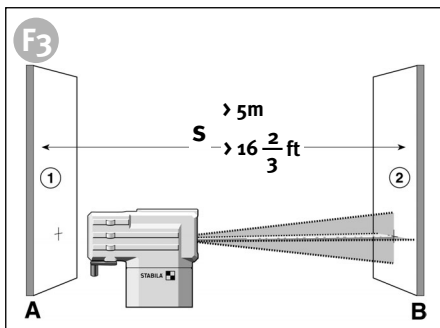
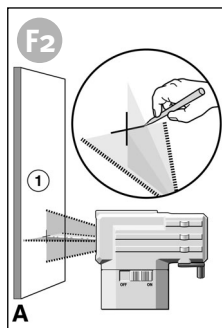
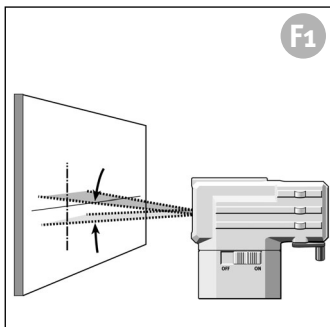
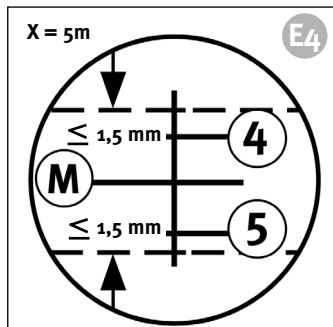
## **Laser LAX 50**

**ja** 取扱説明書









## 取扱説明書

STABILA-LAX-50 は、取扱が非常に簡単なクロス・ライン・レーザーです。自動整準機能 ( $\pm 4,5^\circ$ ) も装備しており、迅速且つ正確に整準することができます。水平および垂直に照射されるレーザー・ライン により、正確な作業が行なえます。セットに含まれている部品を使って、三脚や床と天井の間に挟む長いホルダーバーを組み立てることができます。

この機器の取り扱いや機能を、出来るだけ明確にわかりやすく説明する様に心がけました。わかりにくい点がございましたら下記の電話番号まで、お気軽にお問い合わせ下さい。

+49 / 63 46 / 3 09 - 0

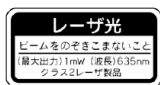
### A 各部の名称

- (1) レーザー装置: LAX-50
- (2) 水平および垂直レーザー・ラインの照射口
- (3) 円形気泡管 (粗調整用)
- (4) スイッチ: ON/OFF
- (5) クランプ
- (6) クランプ用固定レバー
- (7) バッテリーケース・カバー:
- (8) 台座
- (9)  $360^\circ$  スケール
- (10) 運搬ケース
- (11) 伸縮ロッド
- (12) 固定ネジ
- (13) 固定ベルト
- (14) 固定プレート
- (15) スプリング



#### 注意：

クラス2のレーザー機器は、偶然的、瞬間的なレーザーによる照射に対して、目の眼瞼反射により障害を受けないようになってい  
ます。特別な安全対策は必要ではありませんが、直接レーザー光線を見つめないよう  
にしてください。



JISC 6802-1991

子供の手の届かないところに保管してください。付属のレーザー眼鏡は保護用眼鏡ではありません。レーザー光を見やすくするためのものです。

#### 主な使用用途：

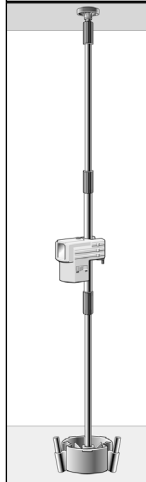
#### 三脚を使ったレベリング

- I. セットを開封します。
- II. 部品を取り出します。
- III. 三脚の高さを調節します。
- IV. レーザー装置を取り付けます。



高さ 2.75 m までのレベリングが無段階に可能です。

- I. 伸縮ロッドを台座から取外します。
- II. 伸縮ロッドを接続し、固定ネジで固定します  
天井の高さ2.75mまで)。
- III. スプリング、固定プレート、台座を使ってロ  
ッドを床と天井の間に固定します。
- IV. レーザー装置を取り付けます。固定レバ  
ーをカチッと音が出るまで回転させて固  
定します。



#### セットアップ - 自動干

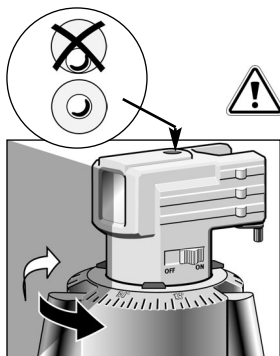
オン/オフ・スイッチ(4)を押すと、器具のスイッチが入りま  
す。スイッチが入ると、水平および垂直レーザー・ライン  
が照射されます。レーザーは、自動的に整準されます。

機器の傾きが大きすぎる場合には、  
レーザー光が点滅します。



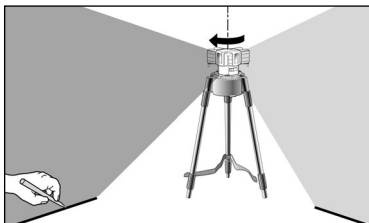
## 360°スケール

垂直レーザー・ラインは、台座の360°スケールを照射し、レーザー装置/レーザー・ラインの回転角を示します。



注意：

この際、気泡管を用いて装置の中心を必ず出しておいて下さい！



## 精度の確認

クロス・ライン・レーザー LAX-50 は、工事現場での使用に耐えるよう設計され、工場では厳密に調整をされた状態で出荷されます。しかし他の精密機器と同様にキャリブレーションは、定期的に行う必要があります。作業を始める前、特に機器が強い振動を受けた後などには、精度の確認を行うことをお勧めします。

## 垂直コントロール

- 01 これを確認するには、基準点が必要です。例えば、下げ振りを近くの壁につ
- 02 るしてください。この基準のそばにレーザー装置を設置します(間隔 = y)。  
垂直レーザー・ラインとこの基準を比較します。測定範囲 2 m 中、レーザー・
- 03 ラインの中心線と基準線のずれが 1 mm を越えてはなりません。



## 水平の確認

### 1. 水平の確認 ラインレベル

水平の確認には、最低 5m 間隔に平行に立っている2枚の壁が必要です。

- F1 1. 壁 A から間隔 S (50 から 75 mm) 離して LAX-50 を、平らな面または三脚の上に正面を壁に向けてセットします。
- 2. 機器のスイッチを入れます
- F2 3. 壁 A 上のレーザー・ラインの交点をマークします(測定点 1)。
- F3 4. レーザー機器全体を、高さを変えることなく約180°回します。
- 5. 壁 B 上のレーザー・ラインの交点をマークします(測定点 2)。
- F4 6. レーザー器具を、壁 B の前に移動します。
- 7. レーザーの高さを調節し、レーザー・ポイントが、
- F5 8. 高さを変えることなくレーザーを 180°回転し、第1のマークの近くになるようにセットします(手順3/第1点目)

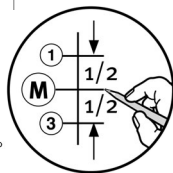
点(1)と(3)の垂直方向の間隔を測定します。

この値は:

を超えてはなりません。

S	最大許容値
5 m	5,0 mm
10 m	10,0 mm
15 m	15,0 mm

- ### 2. 水平の確認 レーザー光線の傾き
- レーザー光線の傾きおよび真っ直ぐに投影されているか確認します。



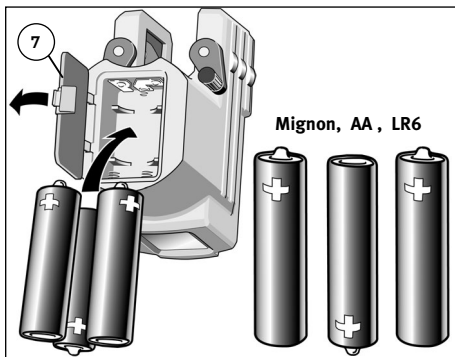
測定点 1 と測定点 3 の中点をマークします(測定点 M)。

- E1 装置を壁 A の前に置きます: 間隔 X = 5 m  
水平レーザー・ラインが測定点 M に命中するように装置を設置します。
- E2 装置を 45° 回転させます。  
レーザー・ライン(= 測定点 4)と測定点 M の間隔が 1,5 mm 以上ずれてはいけません!
- E3 装置を 90° 回転させます。  
レーザー・ライン(= 測定点 5)と測定点 M の間隔が 1,5 mm 以上ずれてはいけません!
- E4 各距離における最大許容公差

X	最大許容値
5 m	1,5 mm
10 m	3,0 mm
15 m	4,5 mm

## 電池の交換

バッテリーケースのふた(7)を矢印の方向開け、ケース内に示されている方向に従って、新しいバッテリーを入れます。  
単ニアルカリ乾電池、  
3本使用  
3×1.5V



同型の充電式バッテリーも使用できます。



### 注意:

長期間使用しない場合は、バッテリーをはずしてください。

レーザーは、決して水につけないで下さい!



湿気のある場所にこの機器を放置しないで下さい。  
濡れている場合、機器及びケースをまず乾燥させてください。

レーザーが点滅 → レーザーの傾きが許容範囲外  
+ 自動整準範囲外  
+ 自動整準できない



お手入れについて

- レーザー発射窓のガラス板の汚れは、光線のクオリティーに影響します。やわらかい布で拭いてください。また必要であれば、ガラスクリーナーをご使用ください。
- レーザー機器は、絞った布で拭いて下さい。水をかけたり、水の中に入れてたりしないでください！  
シンナーや溶剤は、絶対使用しないで下さい。

クロス・ライン・レーザー LAX-50 は、高精度の光学機器ですので、慎重に取り扱ってください。

## 機器仕様

レーザータイプ	可視光レーザーダイオード、波長：635nm
レーザー出力	<1 mW 以下、クラス 2 , IJSC 6802-1991
自動水平補正範囲	約 ±4,5°
水平精度	±0,5 mm/m
電池	3 × 1,5 ボルト、サイズ AA, LR6
電池寿命	約 30 時間
動作温度範囲	-10°C ~ +50°C
保存温度範囲	-20°C ~ +60°C

機器の仕様は予告なしに変更することがあります。